

梶田先生と振り返る思い出の一コマ

Vol.15

1976(昭和51)年に東松山市民憲章が制定されました。市制施行20周年の記念事業の一環として1974年に準備が始まり、市内の各団体から推薦された48名の起草委員が約1年にわたり議論を尽くしました。市民憲章には郷土への思いや市民としての誇りが込められ、市民全体で理想のまちを築きあげてゆくための「心の道しるべ」となることを目指しました。

市民一人ひとりが実行すべき
世代を超えた共通目標なんだね。



花とウォーキングのまちづくりは
市民憲章から生まれたよ。

東松山市民憲章の制定

1976(昭和51)年



キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん ミューやん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。



しがほつやま
キッズ集合!

おしえて『文化財』

大谷瓦窯跡

大谷地区谷中の丘陵の斜面に遺されている瓦を焼いた窯です。出土した軒丸瓦の瓦当文から、白鳳期(飛鳥時代の終わりごろ・7世紀後半)に使われていたと考えられています。1955(昭和30)年に2基の発掘調査が行われ、第2号窯は壊れていましたが、第1号窯は天井部が失われながらもほぼ完全な形で残されていることがわかりました。斜面を掘り込んで作られた半地下式有段登窯です。第1号窯は1958(昭和33)年に国指定史跡に指定されました。

この時代の瓦は、寺院の屋根に置くために焼かれていました。6世紀半ばに仏教が伝来し、やがて地方に広がり、地方の有力豪族たちが寺院建立を始めた頃です。大谷瓦窯で焼かれた瓦が使われた寺院は、残念ながらまだわかっていません。



発掘調査後の内部

地山を階段状に掘り、床面は粘板岩の細片が混ぜられた粘土で補強し、瓦を敷き並べています。側壁は粘板岩と藁を混入した粘土で補強し、さらに南側の壁には瓦を配列していました。



斜面に作られているのがわかります。現在は覆い屋を設置し、砂で保護しています。



軒丸瓦(屋根の縁を飾るための瓦)の瓦当(軒丸瓦の先端の円形の部分)。出土したのはほとんどが平瓦で、時代を決定づける瓦はこれのみです。



窯が作られた丘陵の遠景

問
埋蔵文化財センター
27-103333 FAX 27-10334